

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100158		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター鍋島 グループホームニチイのほほえみ		
所在地	佐賀市鍋島3丁目14-21		
自己評価作成日	平成26年2月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成26年3月17日	外部評価確定日	平成26年4月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>その人らしさを、どうぞいつまでも。「お客様のありのままを受け止め、生きてこられた大切な思い出とともにその人らしく、豊かに過ごしていただきたい。」経営母体である(株)ニチイ学館の理念のもとで入居者様一人ひとりの尊厳を重んじた接遇で経営しています。 楽しいことがたくさんある毎日を、明るい笑顔で心が通う援助をいたします。お客様が一人ひとり明るく楽しい生活が出来るようにケアスタッフが側面からサポートいたします。◎ご一緒に近所のお買い物や散歩に出かけます。街の人々との会話や、道端の小さな発見も楽しめます。◎ホームの敷地内にできる菜園を設けています。野菜や花の成長は感動につながります。◎絵画、折り紙、書道、塗り絵等の創作や、カラオケ、器楽演奏、童話や楽しいリハビリなど趣味や娯楽などを生かした生活リハビリを行っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>佐賀市郊外の新しく開けた街中に建つ事業所は、エレベーター付きの2階建て住宅で、玄関前には、事業所開設時に植えられた見事な一本の枝垂桜があり、訪問者を出迎えている。大きな道路に面した事業所ではあるけれど、枝垂桜があるため、玄関に立つと街中の雑踏を忘れさせるホッとする雰囲気が漂っている。徒歩圏内には24時間スーパーやドラッグストア、郵便局、公園、各種医院、小学校・中学校・幼稚園、佐賀大学医学部附属病院があり、ホーム前はバス停になっており、日常生活が営まれるのに便利で交通の便も良い環境である。地元の方々と積極的に関わる姿勢がみられ、地域行事に参加したり、地元小学校の定期的な訪問があり、子供たちとの交流もなされている。職員は優しい笑顔で入居者に接することを大切にしており、入居者が明るく笑顔で24時間過ごせるサービスを提供している。また、ホームの目の前に大きな公園があり、桜の季節には弁当・お茶を持参してホーム全員での花見を楽しめるなど、社会資源を活用した外出支援も柔軟に行われている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価/ユニットA(大地)	自己評価/ユニットB(キララ)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「社是」「経営理念」を掲示し、毎日全員で唱和を行い共有している。また「社是」「経営理念」ののっとなって日々の業務で実践している。	「社是」「経営理念」を掲示し、毎日全員で唱和を行い共有している。また「社是」「経営理念」ののっとなって日々の業務で実践している。	質の高い介護を目指した法人理念を基に「明るく笑顔で24時間ケアを提供」という事業所理念を作っている。職員は朝礼時に理念を唱和し、実践に取り組んでいる。居間などホーム内の目に付く所に理念を掲げており、職員の入居者に接する様子から、理念が実践されているのが分かる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	スーパーでの買い物や、散歩を通じて地域の方々と交流や挨拶をしたり、施設近辺道路の空き缶拾いや、清掃を実施している。また近辺の小学生との交流会も行い、ふれあいの時間となっている。	スーパーでの買い物や、散歩を通じて地域の方々と交流や挨拶をしたり、施設近辺道路の空き缶拾いや、清掃を実施している。また近辺の小学生との交流会も行い、ふれあいの時間となっている。	自治会に入会し、地区の夏祭りや花火大会に参加している。買い物や散歩で日常的に近隣に出かけるなど地域に溶け込む姿勢が伺える。管理者は自治会総会に毎年出席し、地域を知る様に努めている。毎年学校行事・学習の一環で地元小学生による事業所訪問がなされ、入居者との交流が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	初任者研修実習や高校生の職場体験を受け入れ、施設を開放したりして認知症の理解を深めたり、自治会長や民生委員に運営推進会議のメンバーに入ってもらっている。	初任者研修実習や高校生の職場体験を受け入れ、施設を開放したりして認知症の理解を深めたり、自治会長や民生委員に運営推進会議のメンバーに入ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回必ず実施、ホームの近況報告や行事の案内など行ったり、ご家族からの意見や質問を受けたりして、運営に協力していただいている。また地域包括支援センターからも参加してもらっている。	2ヶ月に1回必ず実施、ホームの近況報告や行事の案内など行ったり、ご家族からの意見や質問を受けたりして、運営に協力していただいている。また地域包括支援センターからも参加してもらっている。	運営推進会議は、家族や自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員などの参加を得て開催されている。また、全ての人に会議の内容を聞いて頂きたいという管理者の思いから、入居者も全員参加されている。会議で出された意見や要望は検討し、加湿機能付きの空気清浄器の購入など運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中部広域連合に出向いていたり、地域包括センターの「おたっしや本舗鍋島」と密に連絡を取り合い協力関係を築いている。	中部広域連合に出向いていたり、地域包括センターの「おたっしや本舗鍋島」と密に連絡を取り合い協力関係を築いている。	市町村担当者との連絡は、地域包括支援センターや広域連合を通して行われている。問題点や不明な点があればすぐに相談し、助言を頂ける関係ができています。法人母体が、市の認知症地域支援事業委託を受けており、協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームミーティングで身体拘束についての勉強会を実施したり、絶対に身体拘束をしないことをスタッフ一人ひとりに浸透させている。	ホームミーティングで身体拘束についての勉強会を実施したり、絶対に身体拘束をしないことをスタッフ一人ひとりに浸透させている。	契約時に入居者と家族に事業所の方針を説明し、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。職員は身体拘束に関する研修を受け、精神的・言葉による苦痛のない支援、受容的な態度で自由を束縛しない支援を心がけている。玄関や居室は施錠しておらず、入居者は自由に行動でき、職員は入居者を見守りながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体で虐待防止に努めており、ホームミーティングで研修も行っている。ニチイでは「虐待を、しない、させない、見逃さない」をスローガンにスタッフ同士が相互監視をしている。	平成26年4月16日		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで青年後見人制度の対象入居者はいませんが、今後そういったニーズが出てくることも予想されるので、研修会や勉強会を通して理解を深める。	今まで青年後見人制度の対象入居者はいませんが、今後そういったニーズが出てくることも予想されるので、研修会や勉強会を通して理解を深める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ご家族と契約書、重要事項説明書等の読み合わせを行い、不安や疑問を取り除いてから、契約を締結している。	契約時に、ご家族と契約書、重要事項説明書等の読み合わせを行い、不安や疑問を取り除いてから、契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に気軽に話していただけのように取り組んでいる。スタッフからこえかけしている。入居者に関することはケアプランに取り入れる。	運営推進会議や面会時に気軽に話していただけのように取り組んでいる。スタッフからこえかけしている。入居者に関することはケアプランに取り入れる。	職員は、家族や入居者と話す事を心がけ、意見や要望の把握に努めている。出された意見や要望は検討し、車イスの人の立位運動を増やしたり、散歩の回数を増やすなど速やかに対処してサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者がスタッフと個人面談を行い職員の意見や提案を聞くようにしている。また会議等でも職員の疑問や意見を聞くような機会を設ける。	管理者がスタッフと個人面談を行い職員の意見や提案を聞くようにしている。また会議等でも職員の疑問や意見を聞くような機会を設ける。	各ユニットミーティングや全体ミーティング、カンファレンス、日常の業務等を通して、管理者は職員とよく話し、意見や要望を聞くように心がけている。職員は積極的に意見や提案をし、地域の夏祭りへの参加や事業所内の備品を充実させるなど運営に活かせるよう検討がなされている。また、毎年1回以上、管理者との個人面談も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や、実績、勤務状況に応じて賞与や賃金アップに繋がるようにしている。また資格習得に関しても手当てとして支給するシステムになっている。	職員の努力や、実績、勤務状況に応じて賞与や賃金アップに繋がるようにしている。また資格習得に関しても手当てとして支給するシステムになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や計画作成担当者、ユニットリーダーを養成するテクニカル研修、管理者研修、実践者研修等、必要に応じ受講している。	管理者や計画作成担当者、ユニットリーダーを養成するテクニカル研修、管理者研修、実践者研修等、必要に応じ受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の高齢者施設や業者、医療機関との交流を図り情報交換や助言を受けたりしている。地域包括が主催するネットワーク会議にも参加して交流を図っている。	地域の高齢者施設や業者、医療機関との交流を図り情報交換や助言を受けたりしている。地域包括が主催するネットワーク会議にも参加して交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前訪問し入居者の話や質問に傾聴し答えることで本人の不安を解消している。また事前にアセスメントを取ることで職員との受け入れ態勢を整える。	入居前に事前訪問し入居者の話や質問に傾聴し答えることで本人の不安を解消している。また事前にアセスメントを取ることで職員との受け入れ態勢を整える。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前訪問や見学会を通じ、入居にあたっての不安解消に努める。またその際にも要望等はケアプランに反映させる。	入居前の事前訪問や見学会を通じ、入居にあたっての不安解消に努める。またその際にも要望等はケアプランに反映させる。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたって、ご家族や入居者にとって何が必要なか、身体状況を踏まえ必要なサービス提供に努めている。満室などのときは他の事業所の紹介も行っている。	入居にあたって、ご家族や入居者にとって何が必要なか、身体状況を踏まえ必要なサービス提供に努めている。満室などのときは他の事業所の紹介も行っている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大きな家族(ホーム)としての信頼関係を築き24時間入居者を支えていくことを理解してもらおうとともに、自立支援の確立を目指し入居者にも相互扶助の目標を持っていただく。	大きな家族(ホーム)としての信頼関係を築き24時間入居者を支えていくことを理解してもらおうとともに、自立支援の確立を目指し入居者にも相互扶助の目標を持っていただく。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の体調を含め日常生活状況を面会時や「ケアプラン作成時に連絡しながら、入居者を共に支えていく信頼関係を築く。	入居者の体調を含め日常生活状況を面会時や「ケアプラン作成時に連絡しながら、入居者を共に支えていく信頼関係を築く。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のアセスメントにより入居者の大事にされている物や好みを把握し入居者には、他の入居者との関係を良好に保てるように援助する。また面会や、外出、電話を利用し今までの関係を保つようとする。	入居前のアセスメントにより入居者の大事にされている物や好みを把握し入居者には、他の入居者との関係を良好に保てるように援助する。また面会や、外出、電話を利用し今までの関係を保つようとする。	入居前に家庭環境や人間関係など、十分な情報収集を行っており、馴染みの人や場との関係を把握して支援している。知人や友人の面会時にはお茶の接待をし、居室でゆっくり過ごせる雰囲気づくりに努め、再来を依頼している。個人的な外出など、本人の希望・申し入れは家族に連絡したうえで、支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーションを通じて他の入居者との関わりを円滑にする。また水分補給や入居者同士が気軽にリビングで共有できて会話ができるように援助する。	体操やレクリエーションを通じて他の入居者との関わりを円滑にする。また水分補給や入居者同士が気軽にリビングで共有できて会話ができるように援助する。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院退去の契約終了の場合でも退去時に気軽に相談があれば連絡できるように説明する。	長期の入院退去の契約終了の場合でも退去時に気軽に相談があれば連絡できるように説明する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員を担当制にし、入居者の意向や希望を吸い上げるようにする。ご家族と連携し、できるだけ希望に添えるように支援する。	職員を担当制にし、入居者の意向や希望を吸い上げるようにする。ご家族と連携し、できるだけ希望に添えるように支援する。	職員は入居者とゆっくり話す事を心がけており、日常生活の中から意向を汲み取る様に努めている。表情や手・身体の動き、顔色から言いたい事を読み取るなど、できる限り入居者の思いに沿える様努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご家族や本人からいろいろ話を伺い情報を共有し支援を行っていく。また生活をしていかれながら、コミュニケーションを図り、ニーズを引き出ししていく。	入居前に、ご家族や本人からいろいろ話を伺い情報を共有し支援を行っていく。また生活をしていかれながら、コミュニケーションを図り、ニーズを引き出ししていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者に合った生活のリズムを把握し身体状況に応じた生活を送れるように支援する。	入居者に合った生活のリズムを把握し身体状況に応じた生活を送れるように支援する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの中で、日々の状況や身体状況を把握し、またご家族の意見を取り入れて介護計画にも反映させている。	カンファレンスの中で、日々の状況や身体状況を把握し、またご家族の意見を取り入れて介護計画にも反映させている。	入居者や家族から要望を聞き、本人や家族の希望等を汲み取った具体的な介護計画が立てられている。日々の介護記録や毎月のミーティングと合わせ、3カ月毎の評価が行われ、現状に即した介護計画が作成されている。状態に変化が生じた場合は、速やかに見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録により体調の変化や食事量、睡眠、排泄回数、水分摂取量までわかり、体調管理に利用している。また介護計画にも反映させている。	個別の介護記録により体調の変化や食事量、睡眠、排泄回数、水分摂取量までわかり、体調管理に利用している。また介護計画にも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族、本人の意向を優先し、さまざまな意向があるときでも、できるだけ尊重しながら対応している。	ご家族、本人の意向を優先し、さまざまな意向があるときでも、できるだけ尊重しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練や消防署からの指導や交通講習で警察から話に来ていただいたり地域資源を利用しながら、安全で豊かな暮らしをサポートしている。	避難訓練や消防署からの指導や交通講習で警察から話に来ていただいたり地域資源を利用しながら、安全で豊かな暮らしをサポートしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居時にご家族と話し合い、かかりつけの病院を希望される方は受診の援助を行っている。まか協力病院は往診や緊急対応引き受けていただいている。	基本的に入居時にご家族と話し合い、かかりつけの病院を希望される方は受診の援助を行っている。まか協力病院は往診や緊急対応引き受けていただいている。	入居者や家族の意向を大切に、事業所の協力医への受診変更の他、入居前のかかりつけ医の継続受診を支援しており、契約時に説明と意向確認を行っている。通院は家族の送迎を基本としているが、職員対応もされている。家族送迎時や職員送迎時、往診時など、受診結果は適切に説明や報告がなされ、記録されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日2回のバイタルチェックを行い管理者(看護師)に報告し、医療機関や、訪問看護との連携を行い適切な対応を行っている。	毎日2回のバイタルチェックを行い管理者(看護師)に報告し、医療機関や、訪問看護との連携を行い適切な対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はスタッフが準備、付き添いを行い、病院に情報提供している。また退院時も必ずスタッフが対応し退院後の支援が円滑に行くように努めている。	入院時はスタッフが準備、付き添いを行い、病院に情報提供している。また退院時も必ずスタッフが対応し退院後の支援が円滑に行くように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を取り入れながら、医療機関と訪問看護と連携を図り、ホームの中で生活が継続できるよう援助を行っていく。また介護計画にも反映させていく。	ご家族の意向を取り入れながら、医療機関と訪問看護と連携を図り、ホームの中で生活が継続できるよう援助を行っていく。また介護計画にも反映させていく。	重度化や終末期に向けた事業所の対応は、契約時に本人及び家族に説明が行われ、同意を得ている。重度化するなど、入居者の状態に合わせて家族や主治医と話し合う体制ができており、家族と事業所・主治医は方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や急変時に備えマニュアルを作成し入居者の異常があったときには迅速に対応できるように努めている。また外部徘徊などについても連絡網を準備している。	緊急時や急変時に備えマニュアルを作成し入居者の異常があったときには迅速に対応できるように努めている。また外部徘徊などについても連絡網を準備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。また避難場所の確保や、非常食、簡易トイレ、水など災害時の対策も準備している。地元の民生委員や自治会とも避難訓練を行っている。	避難訓練を年2回実施している。また避難場所の確保や、非常食、簡易トイレ、水など災害時の対策も準備している。地元の民生委員や自治会とも避難訓練を行っている。	消防署や地域住民の参加・協力を得て、年に2回、昼夜の火災を想定した通報、消火、避難誘導等の訓練を実施している。訓練結果と所要時間、発生した課題・気づきなど詳しく記録している。避難場所の確保と避難誘導補助に地域住民の協力体制も築かれている。災害に備えて飲料水や非常食を3日分備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに合ったケアを行い、尊厳と人格を守りつつ、全員個室対応しプライバシーの確保と安全を提供する。	入居者一人ひとりに合ったケアを行い、尊厳と人格を守りつつ、全員個室対応しプライバシーの確保と安全を提供する。	入居者本人の人格を尊重した声掛けや言葉かけに注意し、入居者の誇りやプライバシーを損ねる事のない様配慮している。個人情報保持・保護に関する個人情報の取り扱いは、入居契約時に家族等に説明し、同意をえている。法人で接遇研修を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が入居者と接しながら、ニーズを引き出し、入居者の意見を聞きながら自己決定できるように支援する。	職員が入居者と接しながら、ニーズを引き出し、入居者の意見を聞きながら自己決定できるように支援する。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れと、入居者の希望を融合しながら、希望に添うように支援する。	業務の流れと、入居者の希望を融合しながら、希望に添うように支援する。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	容姿、口腔ケア、髭剃り、化粧、服装など入居者の自己決定と、職員の支援で毎日の清潔を確保している。	容姿、口腔ケア、髭剃り、化粧、服装など入居者の自己決定と、職員の支援で毎日の清潔を確保している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好や、希望、季節のものなどを取り入れながら食を楽しんでもらっている。また配膳や食器拭きなどを入居者にも協力していただき日常生活観を持っていただいている。	入居者の嗜好や、希望、季節のものなどを取り入れながら食を楽しんでもらっている。また配膳や食器拭きなどを入居者にも協力していただき日常生活観を持っていただいている。	入居者の意見や好みを聞き、柔軟に献立が決められている。食事満足度調査も実施されている。外出行事を利用して、ファミリーレストランなどの外食も行われている。下膳や茶碗拭きなど、入居者ができる事はお手伝いされている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量や、毎日の水分摂取量をチェックして、必要に応じて刻み食やミキサー食にしたり、ゼリーにして水分補給を行っている。	毎食の食事摂取量や、毎日の水分摂取量をチェックして、必要に応じて刻み食やミキサー食にしたり、ゼリーにして水分補給を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員、毎食後の口腔ケアを行い、入居者の能力に応じ、介助を支援している。また定期的に歯科受診を行えるようにしている。	全員、毎食後の口腔ケアを行い、入居者の能力に応じ、介助を支援している。また定期的に歯科受診を行えるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄、排便の有無や回数をチェックして、健康管理している。また排泄時の支援も一人ひとりの状態に応じて支援を統一している。(オムツの方も日中はトイレに座っていただき排泄を促す)	排泄、排便の有無や回数をチェックして、健康管理している。また排泄時の支援も一人ひとりの状態に応じて支援を統一している。(オムツの方も日中はトイレに座っていただき排泄を促す)	記録により入居者一人ひとりの排泄パターンを把握している。時間や態度・様子を見ながらトイレに誘導し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保を行い、適度の運動で便秘を予防している。また毎日の排便チェックで排便回数を確認し、必要に応じて医師の指示を仰ぐ。	水分量の確保を行い、適度の運動で便秘を予防している。また毎日の排便チェックで排便回数を確認し、必要に応じて医師の指示を仰ぐ。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に添い、入浴回数や時間を支援する。(毎日入浴は実施)状況に応じ清拭も行う。	入居者の希望に添い、入浴回数や時間を支援する。(毎日入浴は実施)状況に応じ清拭も行う。	入居者が希望されれば毎日でも入浴できるように支援している。入浴を拒まれる場合は無理強いせず、時間や対応を変えたり、声掛けや清拭等に対応している。下着は毎日交換し、清潔に保つように心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者に応じ就寝時間を対応。寝付けない入居者はリビングにて水分補給をしていただいたり、職員と話をして落ち着いてから休んでいた。	入居者に応じ就寝時間を対応。寝付けない入居者はリビングにて水分補給をしていただいたり、職員と話をして落ち着いてから休んでいた。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ニチイ全体で誤薬に対する取り組みを実施している。毎回複数の職員で薬のセットから飲み込み確認等の支援を行っている。	ニチイ全体で誤薬に対する取り組みを実施している。毎回複数の職員で薬のセットから飲み込み確認等の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力に応じ、趣味や特技を生かしてもらっている。(手芸や絵、習字等)また買い物や散歩なども入居者と一緒に行っている。	入居者の能力に応じ、趣味や特技を生かしてもらっている。(手芸や絵、習字等)また買い物や散歩なども入居者と一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人手と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など日常生活の中で外出の機会を設けている。また個人の希望があるときは家族と連携し本人の希望に添えるようにする。	買い物や散歩など日常生活の中で外出の機会を設けている。また個人の希望があるときは家族と連携し本人の希望に添えるようにする。	ホームの近隣は公園やスーパーなどが多く、買い物や散歩などで日常的な外出の機会が持たれている。交通量の多い道も、広い歩道により安心・安全な散歩ができています。季節に応じた花見やドライブも計画され、行く先は入居者の要望に沿って決められている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方は、一部個人で保管されているが、理容費、医療費などの支払いはお小遣い管理を事務所でやっている。時にはお店に行き職員と一緒に買い物をして支払いをしてもらっている。	金銭管理ができる方は、一部個人で保管されているが、理容費、医療費などの支払いはお小遣い管理を事務所でやっている。時にはお店に行き職員と一緒に買い物をして支払いをもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は、本人が書かれたもの物は基本的に投函している。また職員がたい代筆を行うときもある。電話に関しては希望があれば事務所の電話を使用してもらっている。	手紙は、本人が書かれたもの物は基本的に投函している。また職員がたい代筆を行うときもある。電話に関しては希望があれば事務所の電話を使用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内を明るくし、毎日の共有空間は整理整頓と消毒を行い衛生に気をつけている。また入居者の作品や趣味の作品やレクの作品を掲示して楽しんでもらっている。	室内を明るくし、毎日の共有空間は整理整頓と消毒を行い衛生に気をつけている。また入居者の作品や趣味の作品やレクの作品を掲示して楽しんでもらっている。	ホーム内は明るく、飾りや備品で温もりのある優しい落ち着いた雰囲気を出している。毎朝窓や扉を全開して換気を心がけている。24時間換気装置と空気清浄器を活用して、嫌な臭いや湿気がないように努めている。窓ガラスはペアガラスになっていて、外部の騒音などが入って来ず、室内は静かである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて職員や入居者同士が気軽に話をしたり、お茶をしたり、気軽に利用できる場所を提供している。また共用部分に和室があるので利用してもらっている。	リビングにて職員や入居者同士が気軽に話をしたり、お茶をしたり、気軽に利用できる場所を提供している。また共用部分に和室があるので利用してもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、入居者と家族が相談し使い慣れたものや、思い入れのある品を飾ってもらいそう人らしさ。個性を大事にして居室内を快適に過ごしてもらおう。	居室内は、入居者と家族が相談し使い慣れたものや、思い入れのある品を飾ってもらいそう人らしさ。個性を大事にして居室内を快適に過ごしてもらおう。	居室は広く、自宅で使い慣れた馴染みの品の持ち込みを支援している。机やダンス・椅子・写真や飾り物などの持参品も多く、温かみのあるその人らしい居室づくりがなされている。ミシンを持参して、日々手芸を楽しんでいる入居者もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関はスロープを設置し、ホーム内は段差がないバリアフリーになっている。また廊下や浴室、トイレにも手すりを設置し入居者の自立を支援しています。	玄関はスロープを設置し、ホーム内は段差がないバリアフリーになっている。また廊下や浴室、トイレにも手すりを設置し入居者の自立を支援しています。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
		#####		2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○		1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない